

保存会だより

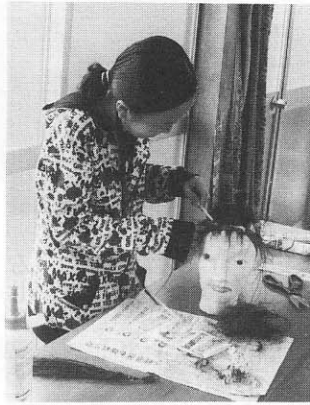
御会
形保
人保
行高祭
発穂船

子供たちの人形作りが

毎年の行事に

保存会の事業活動の一環である、若年層対象の人形制作講座が育成会の年間行事となつて毎年行われている。

穂高町区では去る十月二十二日午後一時より四時まで、穂高町区公民館で指導にあつたのは、小平教室の後継者で藤原さん、塩原さん、日岐さん、内川さん、小林さん、嶋田さんの六名。集まつた十六人の子供たちの中には昨年の前回まで参加していた中で頭や兜の制作途中だったものを完成させたり、初めて参加する子供は同伴した保護者に手伝ってもらいながら手を作る作業に何度も質問をし、針金にわらを付け手の制作に熱中した。



この講座で子供たちが製作した作品は途中であつても文化祭に展示する目標で作っており、普段の研修館にも通い大人たちに混じつて人形作りの研修をしている阿部千尋さん（小六）は小学校低学年から作り始めた頭の制作に工夫しながら毛を植え付け「毎回参加していただけますが頭を作るのが一番楽しかった。これからもこういう機会があると嬉しい。研

修館へ行つてもっと上手になりたい。」と意欲を燃やしていた。保護者からは工夫をしながらまじめに取り組む姿を前に「人形を作っている人の苦労が分かる。このような機会初めて穂高人形を見る目もまた変わつていくかと思う。」と感心していた。

指導にあつた後継者たちは子供たちに何度も質問されたが、「このような子供たちに人形作りに進んでもらいたいののだ。」と望みを語り、「文化祭に展示することで子供たちも夢を持ち意欲が出る。周りの方々の協力や気遣い、指導をお願いします。」と述べていた。

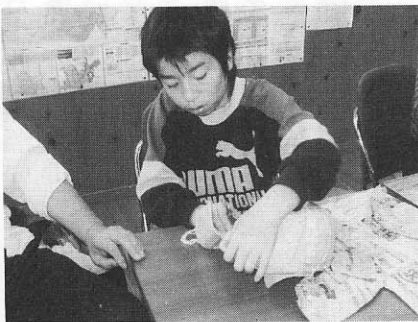
等々力町区では毎年暮れの年中行事である餅つきと注連縄作りに合わせて制作講座を行つており、三度目となる昨年は、十二月八日午前十時より等々力町区公民館で行われた。

参加した親子は子供十七名保護者七名と指導は牛流教室の牛流さん、竹内さん、金子さん、上條さん、根本さん、白沢さんの六名。地区の婦人奉仕の方、有志らによつて餅つきの準備をしてもらうなど、総勢五十名の参加となつた。

前回から作つていた手の塗装を行い、真剣な面持ちで色塗りに取り組んでいた。

午前中の制作に続いて餅つき大会が行われた。参加者全員につきたての餅がふるまわれ、後に注連縄の作り方講習へと続き、暮れの楽しい一時を過ごした。

尚、本年の四度目の開催は十二月十七日（土）午前十時より等々力町区公民館にて行われる予定であり、区の関係者は大勢の参加を望んでいた。



旅行報告 大河ドラマ「江」の里をたずねて



豊国神社にて

保存会が研修の目的で名所旧跡を尋ね歩く日帰り旅行を去る七月二十一日、四十人の参加者をもって行われた。本年のコースはドラマ「江」の里として遠く滋賀県北近江まで足を伸ばすということもあり朝五時の出発であり、高速道路も順調に進み午前十時前には長浜町へ到着。町内開店は十時以降で、待つ間豊臣秀吉を祀る豊国神社へ参拝。後、町内自由散策となった。

長浜の町並みは、城下町として古い町屋が建ち並び、近江商人発祥の地として栄えていること、浅井家のあるさとして今も息づく人々の心がうかがわれた。

特設会場となる長浜黒壁歴史館では大河ドラマ「江」の撮影舞台に相応しく浅井三姉妹に扮する受付嬢に迎えられる。

ここでは主に大河ドラマの昭和三十八年から五十年続く資料を展示。第一回より今年五十回まで続くドラマ作品がダイジェストで見ることが出来、今年の「江」の撮影風景は特に多く見ることが出来た。

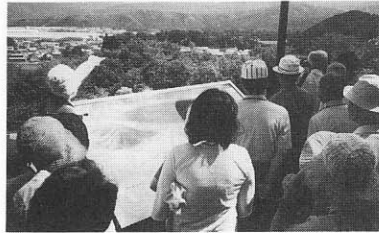
国指定重要文化財の「大通寺」を拝観。本堂の造りや大広間、客殿の襖絵が見事であった。

昼食後は「浅井・江ドラマ館」へ移動。実際に撮影ロケで使用した刀や陣羽織な



浅井三姉妹役に出迎えられる

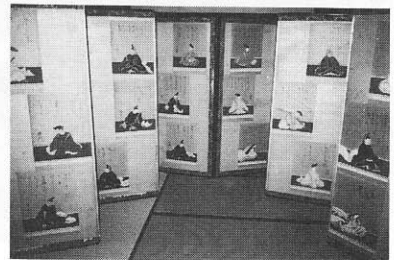
どや三姉妹の人形と記念撮影を楽しみ、ドラマの撮影シーンや織田・豊臣・徳川の時代に浅井家三姉妹が走り抜けた生涯のドラマ作り、小道具セット、女優等の展示解説を聞いた。「よくできている。」「本物そっくりに作ってある。」と感心していた。



笹尾山より関ヶ原を望む

続いて美濃國へと場所を移し関ヶ原へ。民俗資料館ではガイドの説明を聞きつつ拝観。ガイドの案内にて合戦場へとバスで移動。笹尾山へと登り、石田三成が陣を張った場所、また徳川家康が陣を張った場所へと渡り歩き、小早川軍の寝返りや密約などで東軍の勝利となった実際の場所を眺め見渡した。関ヶ原一帯は広くない場所であったが十数万人も来て戦ったことを思い浮かべて「人だらけだ!」と驚く場面も見られた。一行はこの後帰路へと着いた。

今回の旅は早朝よりの強行であったが、実際ドラマでやっていた場所を見渡し、「昔のことが偲ばれた。御船祭の人形達のことを身近に感じる事が出来て良かった。また参加したい。」と疲れを見せずに話していた。



大通寺の屏風絵

子ども達へ心を伝える飾り物

例年小学校との交流を持ち、子供たちへ人形飾り物を間近に感じてもらう目的で行う穂高南小学校への飾り物は、今年

度牛流教室が当番となって三月二十五日卒業式が行われた日の午後一時半から始まった。

場面名は「太田道灌と山吹の里」―太田道灌にみすばらしい家の小娘が差し出した山吹の花によって、後に先人の歌になぞらえたことが分かり、それ以後、道灌が連歌への勉学に励むきっかけとなる物語場面を飾った。

春休み中の小学校では廊下を行き交う先生方より「金欄が綺麗ですねえ。」と感心。「歴史の話で難しいけれど、子供たちに話して聞かせてやりたいものだ。」と語っていた。

文化祭

「後継者の腕の見せどころ」

人形制作後継者たちが研修成果の発表の場として安曇野穂高文化祭を中心として飾り物が始まった。期間は十月三十日から十一月十五日までの十七日間で、穂高神社境内の社務所西側に飾られた。

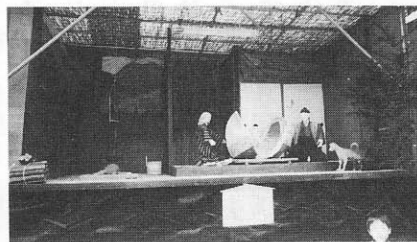
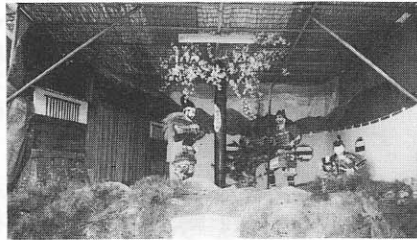


り若干広くなり、長屋作りであったものが今年各教室ごと



に七十五センチ程度間隔を開け独立のものとなった。十月二十七日午前八時より穂高神社拜殿に於いて安全祈願を行い、それぞれが玉串を捧げ神前に祈った後鉄パイプを組み立てた。

制作飾り付けの三日間は好天に恵まれ順調に進み三教室の場面は右側より牛流教室の「小島三郎高德と十字の詩」の場、小平教室の「桃太郎の誕生」の場、保尊教室の「源義経静御前吉野の別れ」の場が完成した。



展示開始に伴い各人形教室で記念写真を撮影。お馴染みの市民タイムスの取材もあり、芸術の秋にちなんで穂高神社の人形飾り物が目を引いた、

神社境内では参拝者等が菊花展を見ながら人形展示場に足を運びカメラを向けていた。特に週末は遠方からバスで訪れる参拝者が多く駐車場も満車になることもあった。

見に来た人達は「市民タイムスで見たのでさっそく見に来た。」「みのもよく編んである。」「鎧を編んで作ってあるだね。」「桃太郎可愛い」「犬が可愛いなあ、大きい桃だ。」「雪が上手に乗せてあるね。」と言っていた。

場面の配置は戦もの二場面がおとぎ話ものを挟む形であり、季節も春と冬が両側にありバランスの良い展示になったと後継者の人達は満足げであった。

展示期間中は文化祭も菊花展も終了したが、飾り物展示は最終日まで多くの参拝者が人形を見に立ち寄った。

スイス村の飾り物

安曇野の秋を彩る穂高人形

十一月二、三日に渡り、豊科スイス村サンモリッツ大ホールに於いて旅行会社クラブツーリズムによる「信州そばと安曇野産新そばがきの振る舞いと信州・安曇野フェア」が開催された。その会場に穂高人形が安曇野を代表する文化として選ばれ、小平教室の皆さんによって飾られた。

両日に渡り二千人の旅行者が来場した。穂高駅前を出発した参加者は、秋の深まりつつある安曇野の道祖神やわさび田を散策しながら会場の大ホールに到着し、そばやそばがきに舌鼓を打ちつつ、ステージ上に飾り付けられた人形飾り物「川中島の合戦の場」の迫力有る姿に見入っていた。

見学者に話を伺うと「表情が凄く良いね。」とか、横浜市から来られた方は「立派。良く出来ている。」と言いつつ写真撮っていた。

県外各地より来場された皆様に、穂高人形を発表することが出来て良い機会となった。



着物、茶箱、寄進多数

去る四月十三日、「市民タイムス」の「みんなの掲示板」欄に、人形や御船の飾り物に必要な着物の寄付をお願いしたところ、多くの方々にお寄せいただき心より御礼申し上げます。これまでに着物類は、帯、袴、羽織など全部で三百二十四点に及びました。尚、寄付者名は左記の通り。(順不同)

▼松本市

小林恭子様、杉原英一様、青柳孝明様
横山知子様、塩原様、輪胡信久様

▼安曇野市

宮下良治様、百瀬加代子様、黒岩恭子様
つばめやクリーニング様、丸山一勇様
横山松子様、横山陽子様、宮澤敏子様
青嶋盛弘様、黒松稚菜様、那須誠様、大倉昇様

▼塩尻市

大西きく江様、中嶋義夫様、古畑様、宮尾宏様
中村富美代様

▼朝日村

大塚房代様

▼東京都

武居弘子様

人形の部品である手、足、頭などを収納しておく茶箱が教室より要望があり、これに応えるべく八月二十六日同欄に掲載したところ、安曇野市内外より多く寄進をいただきました。「家にあつたものを処分しようと思っていたのでありがたい。」との声もあり、総数七十二個が集まりました。あらためて心より御礼申し上げます。

尚、着物についてのご寄付は引き続き受け付けておりますのでよろしく御願ひ申し上げます。